

2006年6月期第3四半期決算説明会



2006年5月15日

株式会社インターネット総合研究所

(注) 当資料は、当社の2006年6月期第3四半期決算報告を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。この資料のいかなる部分も一切の権利は当社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願い致します。また、本資料には2006年6月期の予想にかかわる記載がありますが、これはあくまでも当社の予想であり、その時々状況や多様な要因により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改定する義務を負いかねますのでご了承ください。

目 次

1. 第3四半期決算概況
2. IRIグループ各社の状況
3. IRIグループの全体戦略

1. 第3四半期決算概況

1-1. 2006年6月期第3四半期決算サマリー

(単位:百万円:百万円未満切捨)

		2006年6月期 第3四半期実績	2005年6月期 第3四半期実績	前年同期差	2006年6月期 通期予想(旧)	進捗率	2006年6月期 通期予想(新)	進捗率
連結	売上高	46,272	13,471	+32,801	54,000	85.7%	62,000	74.6%
	営業利益	2,226	190	+2,036	1,900	117.2%	2,450	90.9%
	経常利益	2,062	325	+1,737	1,800	114.6%	2,300	89.7%
	当期利益	3,956	103	+3,853	3,243	122.0%	3,600	109.9%

		2006年6月期 第3四半期実績	2005年6月期 第3四半期実績	前年同期差	2006年6月期 通期予想(旧)	進捗率	2006年6月期 通期予想(新)	進捗率
単体	売上高	88	202	-114	89	98.9%	89	98.9%
	営業利益	△ 660	△ 438	-222	△ 910	---	△ 910	---
	経常利益	△ 854	△ 294	-560	△ 1,090	---	△ 1,090	---
	当期利益	1,438	△ 170	+1,608	1,191	---	1,300	110.6%

※通期予想(新)は5月12日発表の業績予想修正数値

※通期予想(旧)は4月3日発表の業績予想数値

1-2. 連結PL概要

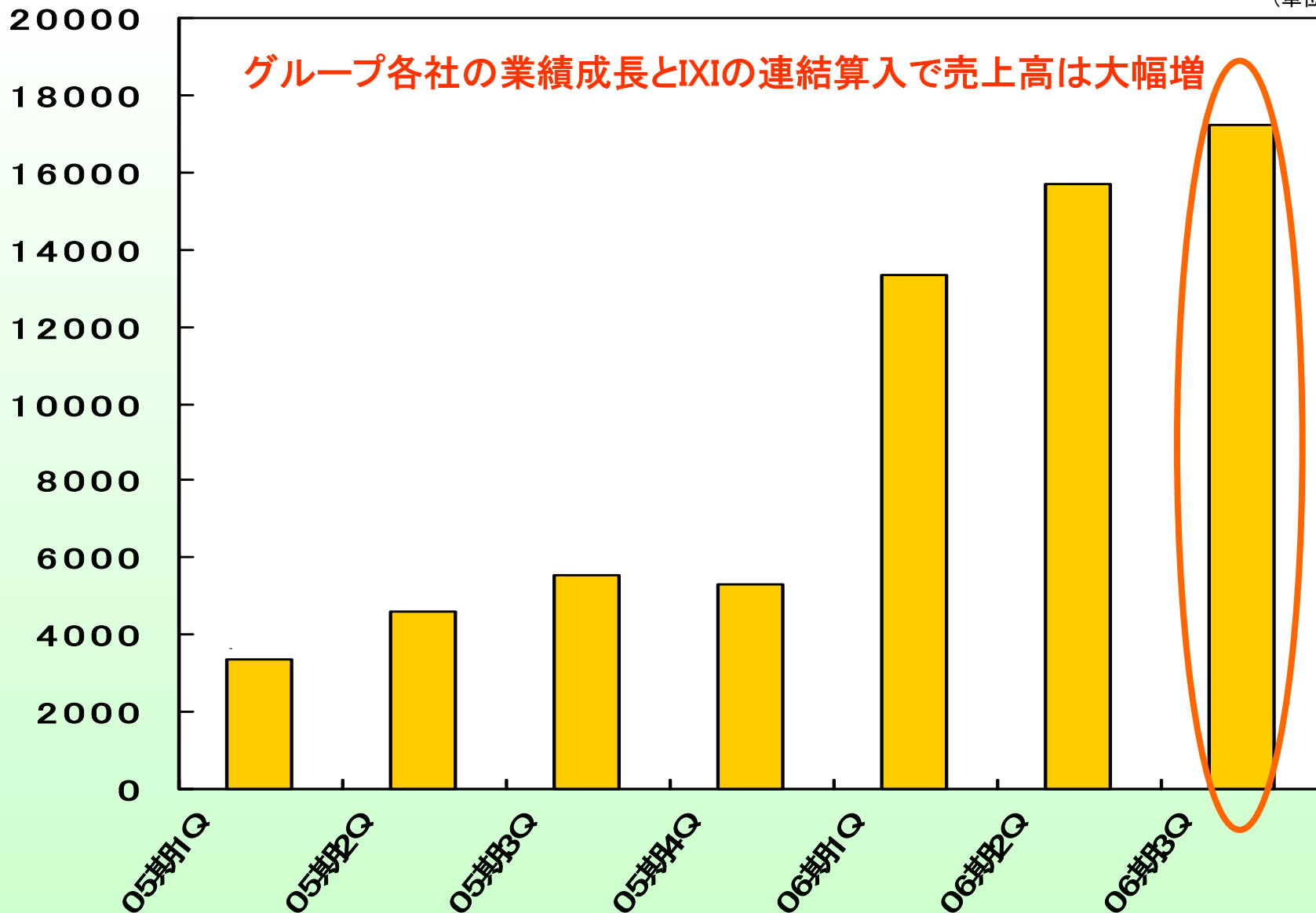
(単位: 百万円: 百万円未満切捨)

	2005/6月期				2006/6月期				
	1Q	2Q	3Q	3Q累計	1Q	2Q	3Q	3Q累計	前年同期比
売上高	3,334	4,598	5,538	13,471	13,336	15,713	17,223	46,272	343%
[IPネットワーク事業]	2,079	3,457	4,247	9,783	3,614	3,403	1,818	8,835	90%
[IPプラットフォーム事業]	1,252	1,114	1,240	3,606	1,528	1,760	1,387	4,675	130%
[IPエンタープライジング事業]	-	-	-	-	8,092	10,732	13,787	32,611	-
[その他事業]	2	27	50	79	103	137	△ 90	150	190%
売上総利益	913	1,058	1,141	3,112	2,022	2,129	2,480	6,631	213%
売上総利益率	27.4%	23.0%	20.6%	23.1%	15.2%	13.5%	14.4%	14.3%	62%
販管費	847	1,010	1,065	2,923	1,507	1,591	1,307	4,405	151%
営業利益	66	47	75	188	514	539	1,173	2,226	1184%
経常利益	106	34	183	325	278	503	1,281	2,062	634%
当期純利益	48	13	40	101	△ 1,222	1,284	3,894	3,956	3917%
暖簾代償却費	144	191	201	536	288	305	183	776	145%
減価償却費	109	123	134	366	217	204	162	583	159%
暖簾代償却前営業利益	211	239	276	727	802	844	1,356	3,002	413%
EBITDA	320	362	410	1,093	1,019	1,048	1,518	3,585	328%

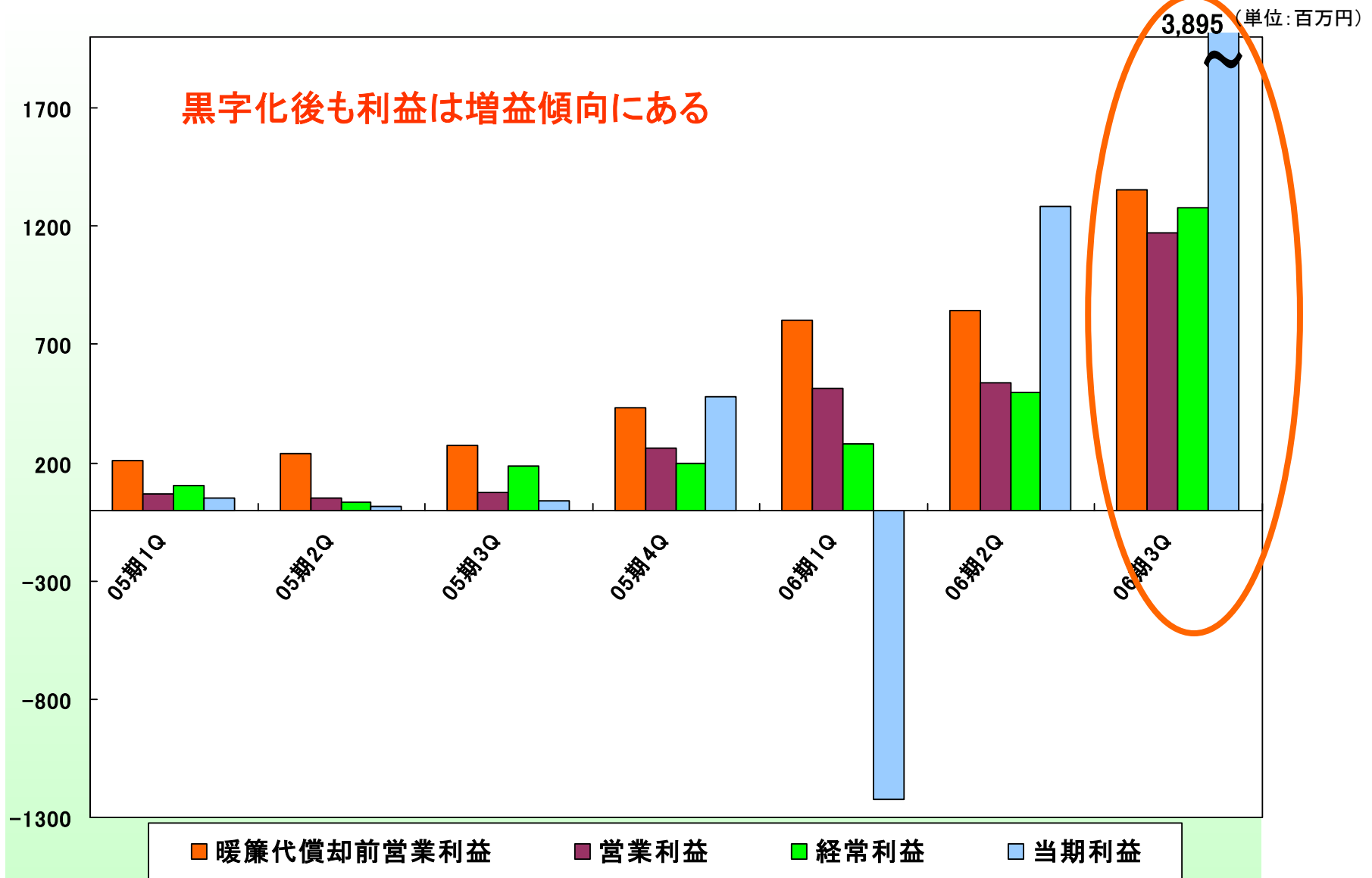
- ・売上高: IPネットワーク事業の減少: BBTowerの持分法適用子会社化による売上減少・IRI-Comの売上減少
 IPプラットフォーム事業: 子会社IRIユビテックとファイバーテックの業績成長
 IPエンタープライジング事業: IXIの連結子会社化
- ・売上総利益: 事業拡大により売上総利益は金額ベースで大幅増加。事業構造上、売上総利益率の低いIXIが今期より連結対象となったことで売上総利益率は低下
- ・営業利益: 販管費は増加したが、売上拡大に伴い営業利益は大幅に増加
- ・経常利益: 新株発行費、有価証券評価損等による営業外費用を吸収し、経常利益も大幅に増加
- ・当期利益: 特別損失: 取引先平成電電の民事再生法手続申請による特別損失の計上(貸倒引当金繰入約26億円、投資有価証券評価損約9億円、VAS営業譲渡損2.6億円、債務保証損失5.7億円、固定資産除却約0.6億円)
 特別利益: 子会社株式売却益約68億円、関係持分変動益約11億円の計上。

1-3. 四半期業績推移(売上高)

(単位: 百万円)



1-4. 四半期業績推移(利益)



1-5. 四半期業績推移(通期の積上げ状況)

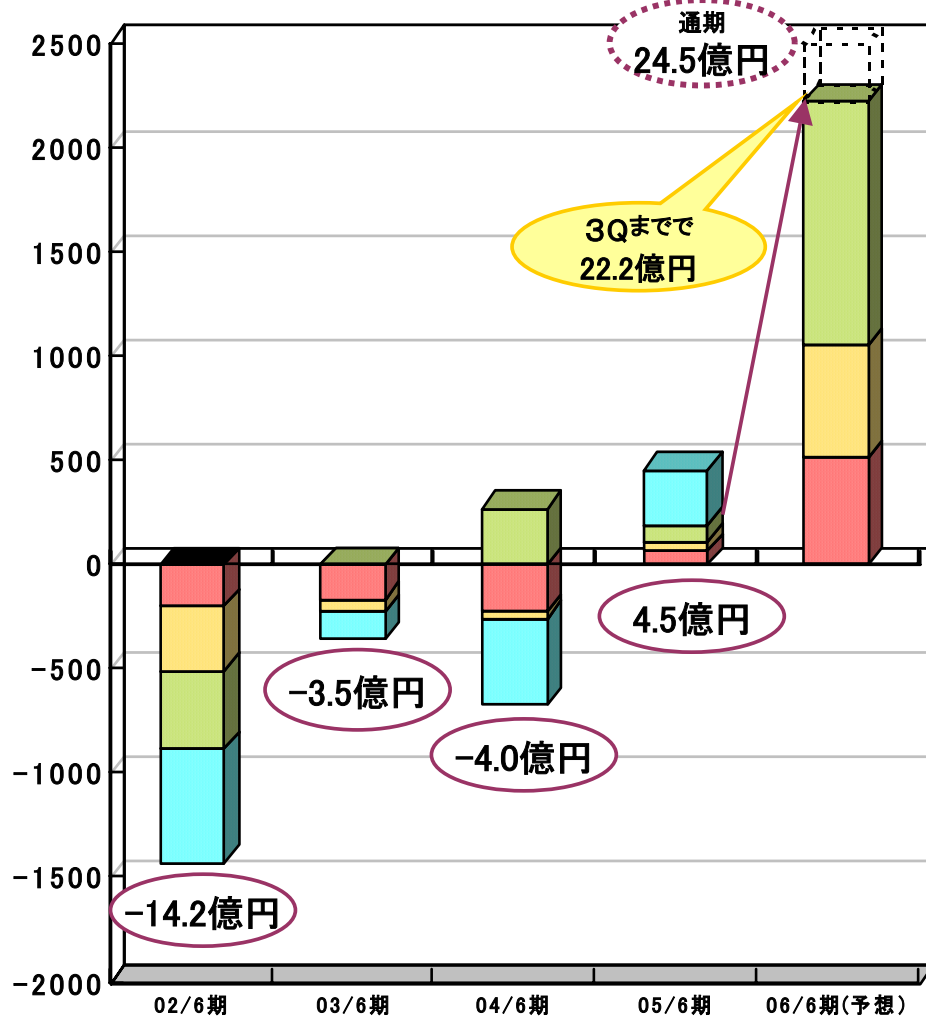
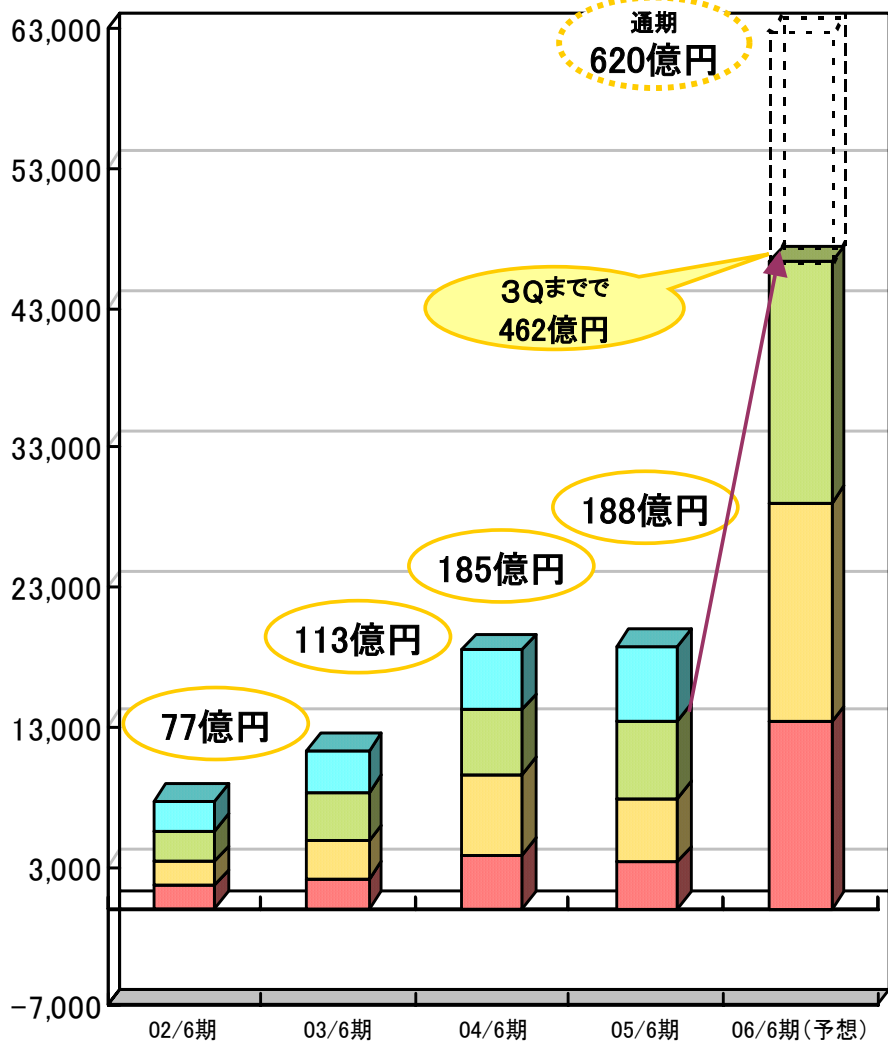
■ 第1四半期
 ■ 第2四半期
 ■ 第3四半期
 ■ 第4四半期

<四半期別売上高推移>

<四半期別営業利益推移>

(単位:百万円)

(単位:百万円)



1-6. グループ会社別業績(対前年同期比)

(単位:百万円:百万円未満四捨五入)

	売上高				営業利益			
	第3四半期累計				第3四半期			
	今期	前期	増減	要因	今期	前期	増減	要因
IRI単体	87	202	-115	本体における事業収入の減少	-660	-438	-222	販管費の増加(広告費、支払手数料等)
BBTower	3,275	3,331	-56	3Qより持分法適用子会社へ変更	379	470	-91	3Qより持分法適用子会社へ変更
IRI-Com	3,365	5,721	-2,356	HDD破綻によるVAS事業・NI事業の減少	-185	3	-188	人員増による販管費の増加
IRI-CT	1,688	490	1,198	イーード社買収による売上の増加	107	27	80	売上増加による利益の増加
PoD	917	259	658	GyaO関連売上の増加	110	26	84	売上増加による利益の増加
IRIユビテック	4,257	3,364	893	モバイル・ユビキタス事業売上の増加	512	360	152	採算の良いコンサル案件の増加
ファイバーテック	444	280	164	極細径内視鏡売上の増加	-111	-58	-53	損益分岐売上未達成による赤字
IXI	32,611	N/A	32,611	連結子会社への算入	2,779	N/A	2,779	連結子会社への算入
IRI-FTA+FT	300	150	150		-181	41	-222	投資関連費用の増加
IRI-USA他	40	5	35		14	-4	18	
合計	46,987	13,805	33,182		2,765	420	2,345	
連結修正	-715	-333	-382	グループ間売上の増加	-540	-230	-310	暖簾代償却費(IXI等)の増加
連結	46,272	13,431	32,841		2,226	190	2,036	

	経常利益				当期利益			
	第3四半期				第3四半期			
	今期	前期	増減	要因	今期	前期	増減	要因
IRI単体	-854	-294	-560	営業外費用の増加(資金調達関連費用)	1,438	-170	1,608	特別利益(子会社株式売却益)の計上
BBTower	359	455	-96	3Qより持分法適用子会社へ変更	449	489	-40	3Qより持分法適用子会社へ変更
IRI-Com	-172	15	-187	営業損失の計上	-3,969	-76	-3,893	特別損失(平成電電関連損失)の計上
IRI-CT	106	26	80	売上増加による利益の増加	48	26	22	売上増加による利益の増加
PoD	110	26	84	売上増加による利益の増加	84	26	58	売上増加による利益の増加
IRIユビテック	517	371	146	採算の良いコンサル案件の増加	299	202	97	採算の良いコンサル案件の増加
ファイバーテック	-108	-57	-51	損益分岐売上未達成による赤字	-108	-57	-51	損益分岐売上未達成による赤字
IXI	2,730	N/A	2,730	連結子会社への算入	1,503	N/A	1,503	連結子会社への算入
IRI-FTA+FT	-183	41	-224	投資関連費用の増加	-212	41	-253	投資関連費用の増加
IRI-USA他	15	-3	18		15	-3	18	
合計	2,521	591	1,930		-451	456	-907	
連結修正	-460	-266	-194	暖簾代償却費(IXI等)の増加	4,408	-353	4,761	平成電電関連の連結処理(連結修正)
連結	2,062	325	1,737		3,957	103	3,854	

1-7. 通期業績の修正について

(単位:百万円:百万円未満四捨五入)

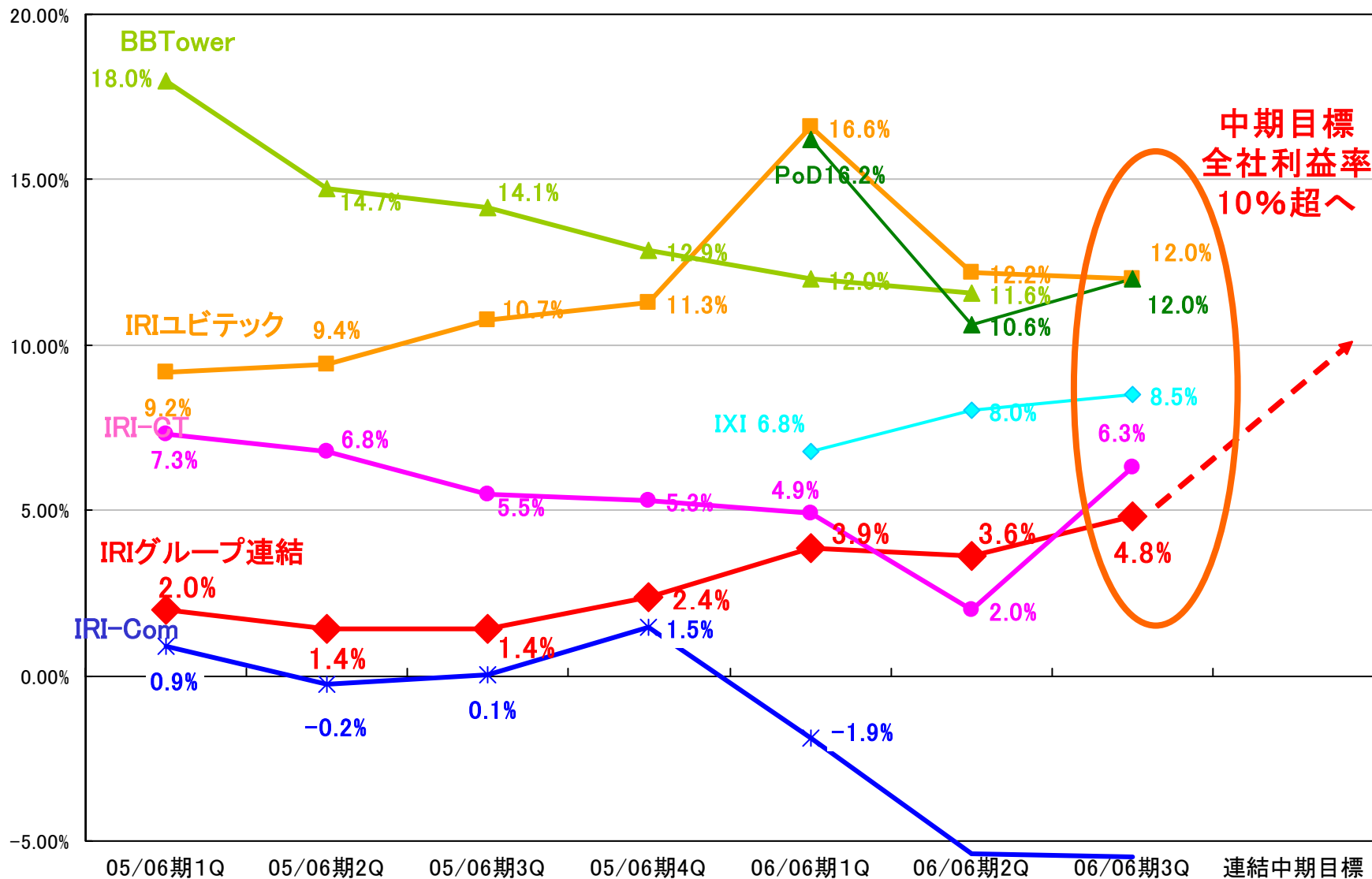
	売上高				営業利益			
	通期予想				通期予想			
	新計画	旧計画	増減	要因	新計画	旧計画	増減	要因
IRI単体	89	89	0		-910	-910	0	
BBTower	3,275	3,275	0		379	379	0	
IRI-Com	4,080	3,740	340		-252	-562	310	人件費等の販管費の削減
IRI-CT	2,281	1,964	318		102	68	34	
PoD	1,235	892	343		148	86	62	
IRIユビテック	6,665	6,665	0		630	630	0	
ファイバーテック	634	919	-286	ビデオ喉頭鏡、中国輸出関連売上の未達	-118	16	-134	売上計画未達による下方修正
IXI	44,611	36,407	8,204	4Q(4~6月)計画の上方修正	3,529	3,006	523	4Q(4~6月)計画の上方修正
IRI-FTA+FT	400	400	0		-395	-134	-261	投資関連費用見込み額の修正
IRI-USA他	42	44	-2		11	19	-8	
合計	63,311	54,694	8,617		3,124	2,599	526	
連結修正	-1,311	-694	-617	グループ間売上の増加	-674	-699	24	
連結	62,000	54,000	8,000		2,450	1,900	550	

	経常利益				当期利益			
	通期予想				通期予想			
	新計画	旧計画	増減	要因	新計画	旧計画	増減	要因
IRI単体	-1,090	-1,090	0		1,300	1,191	109	子会社株式売却益の追加計上
BBTower	359	359	0		449	449	0	
IRI-Com	-232	-537	305	人件費等の販管費の削減	-4,000	-4,337	337	人件費等の販管費の削減
IRI-CT	65	69	-4		-64	8	-72	
PoD	148	86	62		106	66	40	
IRIユビテック	630	630	0		362	362	0	
ファイバーテック	-115	14	-129	売上計画未達による下方修正	-115	15	-130	売上計画未達による下方修正
IXI	3,480	2,945	535	4Q(4~6月)計画の上方修正	1,903	1,507	396	4Q(4~6月)計画の上方修正
IRI-FTA+FT	-397	-135	-262	投資関連費用見込み額の修正	-426	-212	-214	投資関連費用見込み額の修正
IRI-USA他	12	20	-8		12	20	-8	
合計	2,860	2,361	499		-473	-931	458	
連結修正	-560	-561	1		4,073	4,174	-101	少数株主持分利益の増加
連結	2,300	1,800	500		3,600	3,243	357	

※旧計画は4/3発表の業績予想数値

1-8. グループ会社別営業利益率の推移

連結営業利益率は前年同期比で3.4ポイント改善



1-9. 連結BS概要

(単位:百万円:百万円未満切捨)

(単位:百万円)	2005/6月期				2006/6月期			
	1Q	中間期	3Q	決算期	1Q	中間期	3Q	前四半期比
流動資産	8,699	12,908	13,943	14,431	23,742	25,329	28,669	113.2%
うち 現金及び預金	3,939	5,637	5,566	6,043	10,204	7,165	10,592	147.8%
うち 受取手形及び売掛金	4,010	4,083	5,024	4,971	4,537	6,925	8,191	118.3%
うち 棚卸資産	308	359	461	473	5,674	7,885	7,169	90.9%
うち その他の流動資産(含 前払費用)	463	2,832	2,910	2,845	3,347	3,354	2,717	81.0%
固定資産	7,056	8,739	8,960	9,304	19,771	19,356	19,531	100.9%
うち 有形固定資産	2,404	2,572	2,596	2,763	4,197	2,754	3,188	115.8%
うち 無形固定資産	1,663	2,107	2,000	1,810	10,632	10,060	9,192	91.4%
うち 投資その他資産	2,988	4,059	4,363	4,731	4,941	7,158	7,149	99.9%
繰延資産	---	16	15	13	28	15	33	220.0%
資産合計	15,756	21,664	22,918	23,749	43,541	44,701	48,233	107.9%
流動負債	4,141	3,833	5,028	5,030	11,083	13,136	10,044	76.5%
うち 支払手形及び買掛金	2,803	2,333	3,551	3,594	4,372	7,140	5,408	75.7%
うち 短期借入金(1年内返済長借金含む)	100	243	232	253	3,988	2,835	1,995	70.4%
固定負債	523	4,993	4,900	4,815	11,103	5,011	4,953	98.8%
うち 新株予約権付社債	---	4,500	4,500	4,500	10,490	4,500	4,500	100.0%
負債合計	4,664	8,826	9,929	9,845	22,187	18,147	14,998	82.6%
少数株主持分	1,178	2,024	2,126	2,495	6,278	4,106	7,140	173.9%
資本金	3,866	3,900	3,906	3,920	6,474	9,426	9,430	100.0%
資本準備金	6,266	7,058	7,065	7,073	9,532	12,482	12,486	100.0%
利益剰余金	△ 243	△ 162	△ 121	356	△ 881	403	4,318	1071.5%
資本合計	9,913	10,813	10,862	11,408	15,075	22,447	26,094	116.2%
負債・少数株主持分および資本合計	15,756	21,664	22,918	23,749	43,541	44,701	48,233	107.9%

対中間期増減要因分析

- ・流動資産の増加:IXIの売上増加に伴う売掛金の増加。子会社株式売却による現金の増加
- ・流動負債の減少:IXIの買掛金の減少
- ・少数株主持分の増加:BBTower株式の売却
- ・資本の増加:利益剰余金の増加

1-10. 連結CF概要

(単位:百万円:百万円未満切捨)

(単位:百万円)	2005/6月期		2006/6月期		
	第3四半期末	通期末	第3四半期末	前年同期比 (差引)	前期末比 (差引)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,502	△ 991	△ 2,813	-1,311	-1,822
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,171	△ 1,160	△ 6,064	-4,893	-4,904
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	4,077	4,031	13,413	9,336	9,382
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 1	1	11	12	10
V 現金及び現金同等物の増加額	1,401	1,880	4,547	3,146	2,667
VI 現金及び現金同等物の期首残高	3,999	4,000	5,991	1,992	1,991
VII 連結子会社増加による増加額	111	112	0	-111	-112
VIII 現金及び現金同等物の期末残高	5,512	5,992	10,539	5,027	4,547

・営業キャッシュアウトフローの増加

増加要因:子会社IXIにおける売上増加による運転資本の増加

(売掛金:+38億円/たな卸資産+32億円/買掛金△14億円)

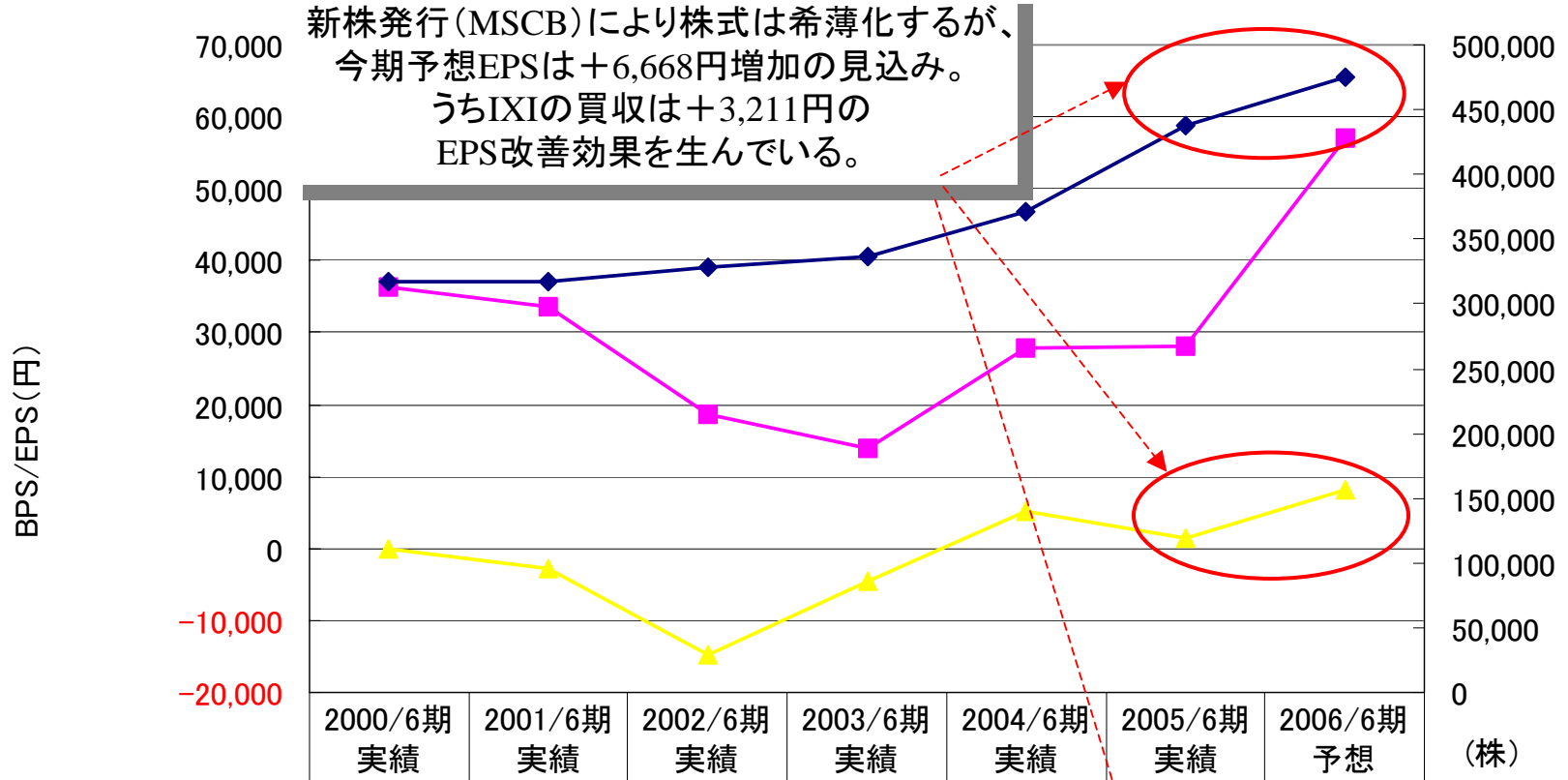
・投資キャッシュアウトフローの増加

増加要因:株式取得 (IXI:90億円、その他:12億円)、固定資産取得 (BBTower・IXI等:23億円)

・財務キャッシュフローの増加:

増加要因:社債発行(109億円)、少数株主の払込 (IXI公募・MBT:50億円)

1-11.EPS・BPSの長期推移



※06年6月期予想は5月12日発表の業績予想を基に算定

※BPS: Book Value Per Shareの略称で一株当り純資産とも言われ、会社の純資産が一株当りどのくらいあるかを表します。

※EPS: Earning Per Shareの略称で、企業の最終利益が一株当りどのくらい計上しているかを表わします。

※発行済株式数は分割調整後の期中平均株式数

1-12. 連結グループ:財務ハイライト(第3四半期~現在)①

◆MVNO事業を支援するMVNE企画会社を設立

- ・新会社名 株式会社モバイル・ブレイクスルー
- ・資本金 6,000万円(出資比率:当社66.7%、三井物産16.7%、IRIユビテック13.3%、BSURパートナーズ3.3%)

◆グローバルナレッジネットワーク(GKN)の新株予約権付社債の引受け

- ・IPエデュケーション事業の開始→IT教育サービス市場の開拓
 - ・新株予約権付社債2億円、新株予約権32個(普通株式1個あたり521株、1株あたり47,985円)
 - ・上記社債とは別に新株予約権8億円の引受契約も締結
- 新株予約権付社債および新株予約権について、すべて行使した場合には、当社の所有割合は80%となる予定

◆アイ・ブロードキャストと資本・業務提携

- ・携帯電話端末向け画像関連サービスを携帯電話事業者、MVNO事業者向けに展開
- ・出資額:3千万円

◆IRIユビテック一部株式、立会外分売で売却

- ・IRIユビテックの株式の分布状況改善および流動性向上のため
- ・分売後の所有株式数 27,518株(持株比率79.2%)

◆アイ・エクス・アイ(IXI)の第三者割当増資の引受け

- ・IXIの事業拡充のため新株式8,000株(公募増資4,000株、第三者割当増資4,000株)の発行
 - ・当社は第三者割当増資を引受け、IXIとの連結関係を維持
- 引受け後の当社の持株比率は、52.19%(平成18年3月末現在)

◆BBTowerの株式一部売却の完了

- ・当社の事業戦略および子会社の事業再建における資金として確保。9,641株(発行済株式総数の約10%)を上限に売却方針を決めていたが、上限株数全株が売却完了
 - ・上限株数売却完了後の所有株数38,564株(持株比率40.1%)
- 連結子会社から持分法適用関連会社へ

◆IRI-Comの再建方針の決定

- ・IRI-Comの減資
- ・当社が現在保有しているIRI-Com株式のIRI-Comへの全株式無償譲渡
- ・IRI-Comへの債権(貸付金)の一部放棄
→債権(貸付金)放棄予定額:約22億円 債権放棄実行日:平成18年5月29日(月)を予定
- ・第三者割当増資の実施
→外部によるファンドが引受け(68.2%)。 当社の持株比率は89.7%から14.7%へ

◆IPシナジーファイナンス™事業第一号案件としてアイ・ビー・イー(IBE)資金調達のアレンジメント

- ・放送・通信分野で業務提携
- ・IBEの発行する転換社債20億円をアイ・アール・アイファイナンスアンドテクノロジー(IRI-FT)が管理するファンドがファイナンスをアレンジメント

◆IRIユビテックの株式一部売却

- ・IRIユビテックの株式分布状況改善のため一部売却
- ・売却完了後の所有株数27,018株(持株比率77.8%)

◆株式交換によるサーバーホールディングスの完全子会社化

- ・携帯電話向けコンテンツ流通に関する技術・ノウハウをグループ内に取り込むことを目的
- ・株式交換比率 IRI:サーバーホールディングス=1:2.6
- ・株式交換により交付する新株式数 10,327株

進めてきた再建方針の骨子

- ①コア事業への特化: サービス系事業(特にネットワークセキュリティ関連サービス)への特化
- ②外部パートナーとの提携(資本提携含む)による事業の拡大
- ③資金繰りの改善: 債務超過の解消とキャッシュフローの確保

平成18年4月3日にIRIコミュニケーションズに対する債権放棄について決議

- 当社2006年6月期事業年度中の2005年10月に発生しました、当社連結子会社である株式会社IRIコミュニケーションズ(IRI-Com)の主要取引先であった平成電機株式会社の民事再生手続開始申立の影響を受け、IRI-Comは実質債務超過に至っております。
- これまで当社は、親会社としての然るべき支援や対策をとってきておりましたが、このたび、IRI-Comに対する当社の再建支援方針が固まり、IRI-Comの減資、当社が現在保有しているIRI-Com株式のIRI-Comへの全株式無償譲渡、IRI-Comの財務体質を改善するための債権(貸付金)の一部放棄を行うことを決議いたしました。
 - (1)債権(貸付金)放棄予定額: 約22億円
 - (2)債権放棄実行日: 平成18年5月29日(月)を予定
- なお、全株式の無償譲渡によりIRI-Comは連結子会社から外れます。
- IRI-Comについては、外部によるファンド等からの第三者割当への増資を実施(当社も一部引受)による資金を得て、事業継承・発展させてまいります。
- 割当先(予定) SBIグループ(ファンド等) 68.24%、経営陣 17.06%、IRI 14.67%

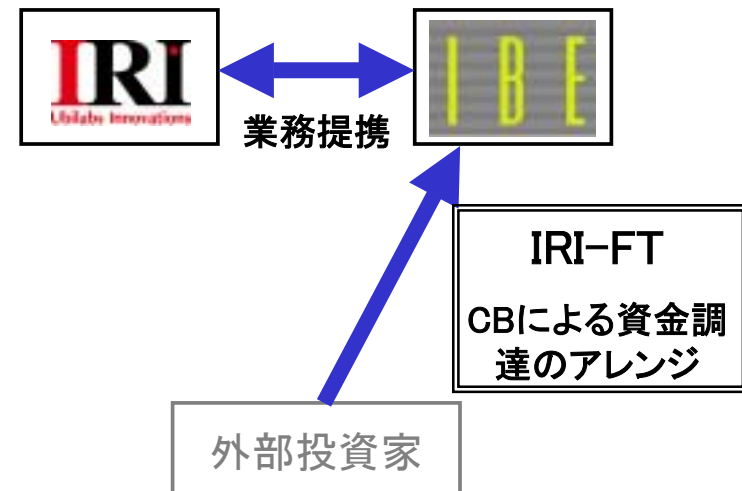
IPシナジーファイナンス事業の第1号案件として、放送・通信分野での株式会社アイ・ビー・イーとの業務提携を行った

IPシナジーファイナンス事業とは

- パートナー企業へIRIグループの有する革新的なIPテクノロジー・ソリューションを提供し、パートナー企業の企業価値向上を支援する事業
- 企業価値向上の支援に際して、ファイナンスのアレンジメント等も併せて行う

本取引の概要

- IRIグループ企業であるIRIファイナンスアンドテクノロジー(以下「IRI-FT」)が株式会社アイ・ビー・イー(以下「IBE」)の転換社債による資金調達(20億円)のアレンジを実施(IRIとIBEの間には資本関係は発生しないが、外部投資家がCB転換により得た株式を売却しリターンを得た際に、そのリターンの一定割合をIRI-FTが得られる)
- IRI本体とIBEとの間で放送・通信分野における業務提携契約を締結



IP技術と映像・コンピュータ技術の融合により、デジタル映像管理とIPネットワーク上での運用を一体化したビジネスソリューションの実現を目指す

IBEの会社概要

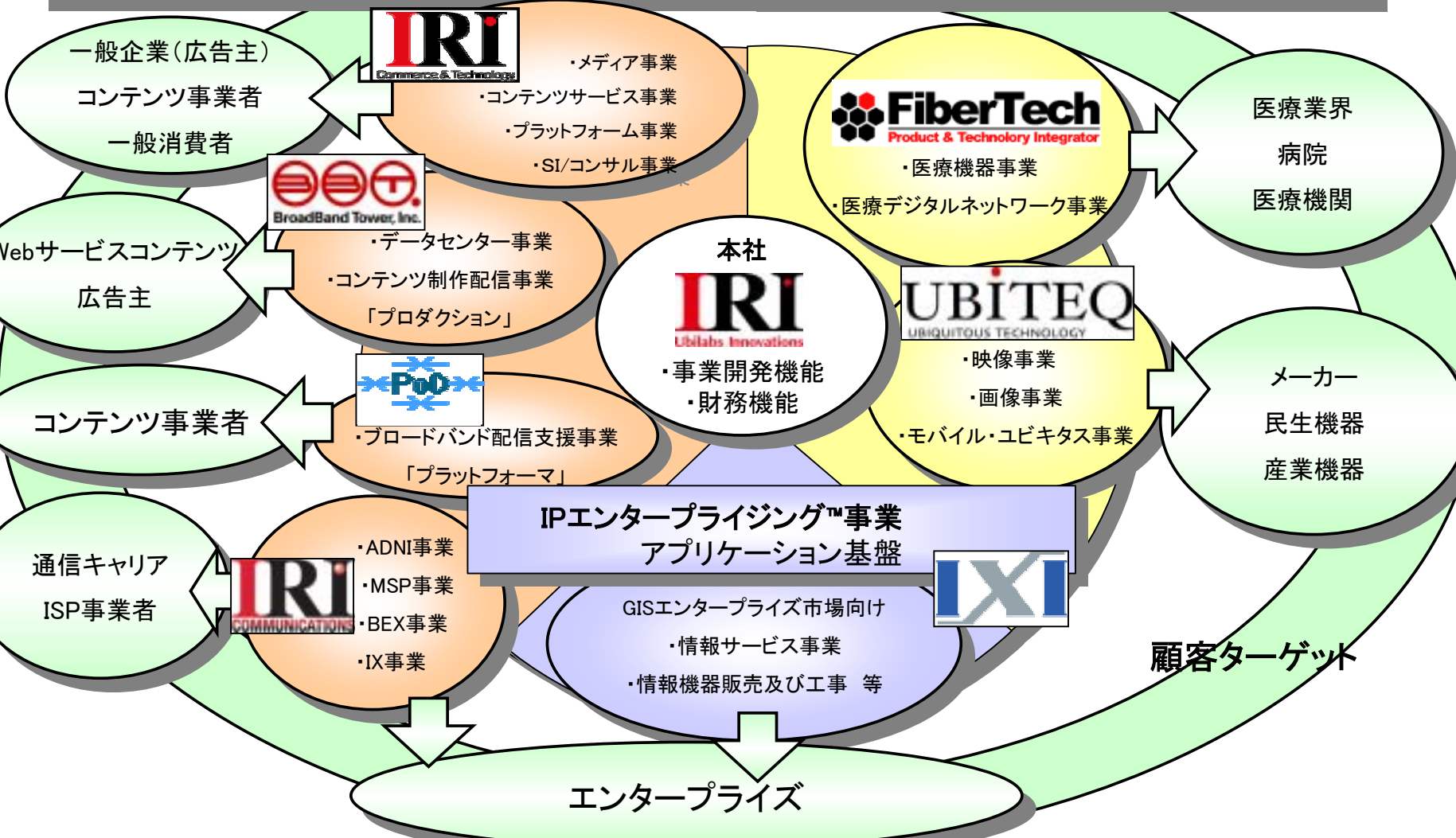
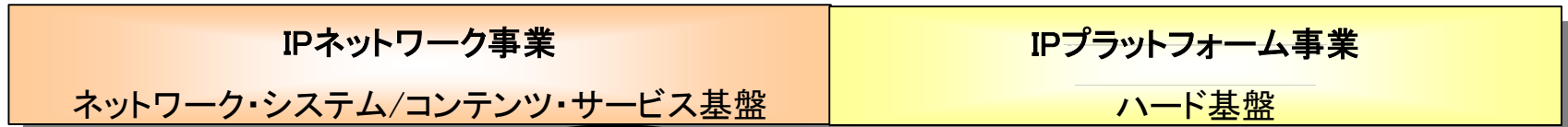
- 社名: 株式会社アイ・ビー・イー (IBE, Inc.)
- 所在地: 東京都千代田区
- 創業: 平成11年10月1日(設立 平成10年11月9日)
- 資本金: 10億210万5千円
- 従業員数: 47名
- 主要株主: シャープ株式会社、NTTソフトウェア株式会社、日本オラクル株式会社、株式会社日立アドバンスデジタル、株式会社電通国際情報サービス他
- 事業内容: 放送局向けのデジタルデータのアーカイブシステム開発技術の中核としたシステム開発・製品販売会社

本取引の狙い

- IRIの保有するIP技術とIBEの保有する映像およびコンピュータ関連技術を融合し、デジタル映像のマスター管理とIPネットワークでの運用とを一体化したビジネスソリューションとして提供する
- かかるビジネスソリューションにより、放送・通信分野におけるIP化をリードし、ブロードバンドとモバイル・ネットワークの普及が著しい日本をはじめとする先進アジア地域を起点としたグローバルトレンドを創造する

2. グループ各社の状況

2-1. グループ事業展開



2006年6月第3四半期実績 売上：5,402百万円 営業利益：726百万円

事業別売上高 (百万円)	前期 通期実績	今期 通期予想	今期 3Q実績
データセンター事業	4,317	6,580	4,840
稼動ラック数	1,287	1,870	1,846
ブロードバンド配信事業	542	650	540
合計	4,860	7,300	5,402

◆ブロードバンド配信事業

第3四半期累計でネットシネマ40本作品の制作・配信実施。(第3四半期24本)

放送局のインターネット配信サービスを受注。

ネットシネマの制作本数は増加し、売上も増加したが、利益率の高いオリジナル作品の製作や、配信権販売が低調。結果的に利益率が低下。



オリジナルネットシネマ
「探偵事務所5」

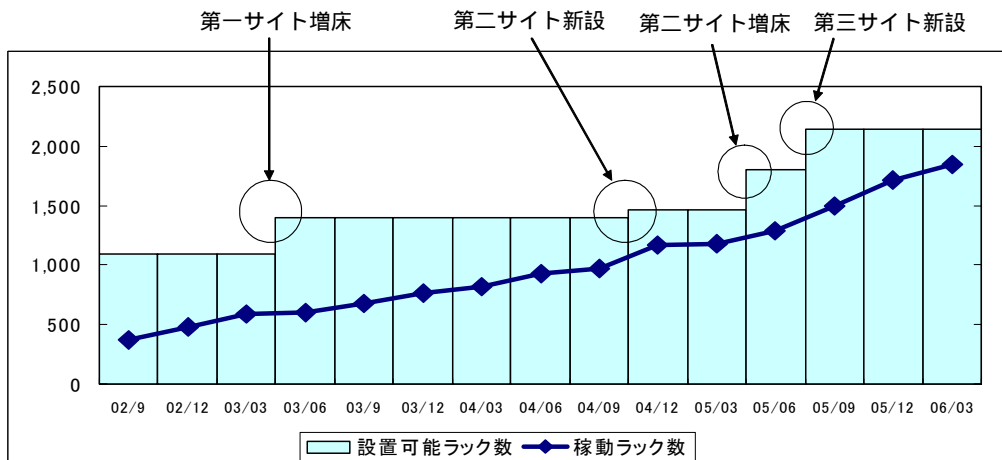
第3四半期の売上・売上総利益は、過去最高を更新。特に売上総利益は、9ヶ月累計で当初計画を達成

西日本データセンター運用業務受託
3月スタート

既存顧客からの追加受注が好調

◆データセンター事業

現在の実稼動ラック数：1,846ラック 稼働率：86% (2006年3月末現在)



2006年6月期第3四半期実績 売上： 3,365百万円 営業損失： △184百万円

事業別売上高 (百万円)	前期 通期実績	今期 通期予想	今期 3Q実績
BBX事業	916	1,033	796
VAS事業	1,049	357	357
MSP事業	248	419	297
NI事業	5,714	2,177	1,854
ASP事業	—	91	56
合計	7,929	4,080	3,365

◆ BEXサービス

インターネットビジネス業界の急成長に伴いインターネットのトラフィックが増加し、回線の増速需要が増している。インターネットビジネスプレイヤーからの引き合いの増加とともに受注が拡大。

◆ メールASPサービス(Anti-Abuse Mail Service)

サービス開始後6ヶ月経過。35,000ID稼働中、契約数100,000ID達成。ISPを中心として展開していたが、今後より市場の大きいエンタープライズマーケット向けの新サービス投入に向けて準備中。

◆ 大型NI案件受注

大手マルチサービス事業者、iDC事業者、大手流通EC事業者等からの大型案件増加中。NIの初期のコンサルティング段階、設計構築、運用までのトータルサービスの提供を目指す。

2006年月期第3四半期実績 売上: 1,688百万円 営業利益: 107百万円

事業別売上高 (百万円)	前期 通期実績	今期 通期予想	今期 3Q実績
メディア・コンテンツ事業	236	375	292
モバイル&コマース事業	113	173	122
プラットフォーム・コンサル事業/その他	351	509	365
(株)イード	-	1,222	925
合計	701	2,281	1,688

◆RBB TODAYデザインを一新



RBBTODAY (<http://www.rbbtoday.com/>) は、デザインを一新しました。新デザインでは、提供する各ジャンルの切り替えボタンをページ上部に配置し、さまざまな情報コンテンツを横断的にアクセスできるようにしました。

◆中小企業向け情報漏洩対策ソフトウェア「ALL Watcher ASP」発表 「Winny」の起動ログも取得可能



「ALL Watcher ASP」は、ログ収集サーバの構築や導入費用を抑えたいというニーズから、PC操作ログをインターネットを通じて、IRIコマース&テクノロジーが管理・運営するデータセンター内サーバへ保存、閲覧を実現したASPサービスです。

具体的なログ取得例

- ・最近騒がれている「Winny」が起動されれば、その起動ログが取得できます。
- ・個人情報等をUSBメモリにコピーした、といったファイル操作ログが取得できます。
- ・どのサイトへアクセスしたのか、どこへメールを送信したのか、FTPでファイルをアップロードした等、通信ログが取得できます。
- ・重要な資料を、どのプリンタで何時に出力している、といった印刷ログが取得できます。

◆「RBB TODAY」「レスポンス」ニュース記事は、国内インターネットユーザーの90%以上に配信



◇「RBBTODAY」「レスポンス」のニュース記事は、国内の主だったポータルサイトすべてに配信され、国内インターネットユーザーの90%以上に行き渡るほどの影響力を持つほどになりました。



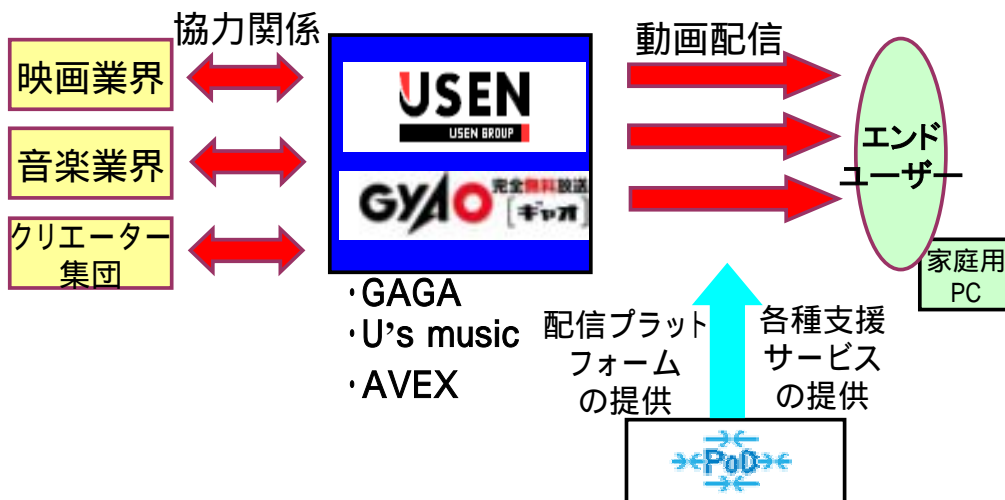
2006年6月期第3四半期実績 売上： 917百万円 営業利益： 110百万円



事業別売上高 (百万円)	前期 通期実績	今期 通期予想	今期 3Q実績
動画配信事業	446	1,274	917

◆USENのGyaOサービス 登録視聴者数が大幅増加

USENの広告モデル型無料動画配信サービス「GyaO」の動画配信プラットフォームを提供。



GyaO 2006年3月末には登録視聴者数が850万人を突破！
3月単月の伸びは106万人！

PoDは、技術的事業パートナーとして、動画配信プラットフォームを提供。

<2006年の事業目標>

○重要顧客であるGyaOの成功に注力、動画配信市場の拡大に尽力。

○一般事業会社のPR・IR等のニーズの取込み。

◆2006年も東北楽天ゴールデンイーグルスの配信を受注し、実施中

2006年6月期第3四半期実績 売上：4,257百万円 営業利益：512万円

事業別売上高 (百万円)	前期 通期実績	今期 通期予想	今期 中間実績
映像事業	1,081	947	532
画像事業	2,043	2,960	1,755
モバイル・ユビキタス事業	1,315	2,541	1,955
香港現地法人	—	217	—
連結合計	4,441	6,665	4,257

◆ 次世代インターネットプロトコル(IPv6)対応、BX(Building eXchange)を製品化

IPv6 アプリコンテスト2005 インプリメンテーション部門
企業枠 **最優秀賞受賞！！**

IPv6技術を利用した、省エネ照明制御システムの基幹ゲートウェイユニット

共同開発

National



センサで検出

照明機器感知(今後空調などへの対応も)

ネットワーク(IPv6技術による)接続

コントロール制御

ビル群の一括管理可能！



このBXは、IPv6に対応し、ビル管理における照明、空調などの各種センサーネットワーク・ゲートウェイ機能を提供し、建物の中の設備(今回の例では照明器具)を一つ一つ直接IPアドレスによって制御できる仕組みを提供しています。

平成15年、松下電工様と共同開発を始め、その後平成16年に試作機開発に成功、平成16年11月に東京国際フォーラムにおいて開催されたGlobal IP Business Exchangeで共同出展も行いました。

その後、松下電工様とユビテックにおいて試作機の改良を重ね、平成18年3月、出荷の運びとなりました。慶応義塾大学湘南藤沢キャンパス、慶応藤沢イノベーションビレッジの施設にて、IPv6対応省エネ照明制御システムとして稼働を開始しています。

IPv6アプリコンテストとは：IPv6普及・高度化推進協議会が、IPv6を中心とする次世代ネットワーク社会を念頭におき、未だ顕在化していないアイデア、ニーズ等の具現化を行う目的で開催しています。インプリメンテーション部門は、実際にIPv6技術が動作している製品に応募資格が与えられ、今回は7カ国16の応募作品があり、世界各国の審査員により厳正なる審査が行われました。

2006年3月期第3四半期実績 売上:444百万円

営業利益:△111百万円



事業別売上高 (百万円)	前期 通期実績	今期 通期予想	今期 3Q実績
極細径内視鏡	128	274	197
電子・硬性内視鏡	116	36	33
モニタリングシステム	93	201	129
その他製品	115	123	85
連結合計	452	634	444

◆ 高画質眼科用内視鏡を発売

眼の網膜手術に使用する高画質 内視鏡の開発に成功しました。従来の光ファイバーを1.5倍に増量し解像度を上げることに成功。また対物レンズは世界最小0.5mmの組みレンズを開発し更に画質の向上を図りました。この技術を応用し他分野においても新しい内視鏡の開発を予定しております。

◆ ミトラ社と電子カルテについて事業提携契約を締結

当社はIRIグループの医療分野におけるプラットフォーム事業推進企業としてこの度、ミトラ社の開発した産婦人科向け電子カルテについて事業提携契約を締結しました。この製品はミトラ社により香川大学医学部附属病院医療情報部原教授の支援の下に開発された周産期電子カルテで、妊婦さんと胎児の医療情報や検査時・誕生時の様子を収録できる産婦人科用の電子カルテです。当社は医療機器のセールスネットワークを生かし同製品の販売及びマーケットリサーチを実施いたします。

また産婦人科以外の特定診療科目向けに電子カルテを共同開発する予定です。今後、電子カルテの主流ともなりうるASP電子カルテにも着手し、そのときには一般の患者さんも見ることのできる生涯健康カルテの開発も行ないます。



2006年6月期第3四半期実績 売上:32,611百万円 営業利益:2,779百万円



事業別売上高 (百万円)	前期 通期実績	今期 通期予想	今期 3Q実績
連結合計	今期より連結	44,611	32,611

◆ 音声認識ソリューション

顧客サービス向上・業務効率化を実現可能とする
音声認識ソリューションの提供

- コンタクトセンター業務効率化に寄与する
VoiceSmile/Logの提供開始
(音声テキスト変換と分析システムとの連携)

◆ ロジスティクス・ソリューション

刻々と変化する市場ニーズに対応可能なロジスティクスソリューションの提供

- 製造／販売／物流をシームレスに管理する計画支援
- 広域在庫を統合管理するWMS構築
- 無線インフラを活用した遠隔在庫管理・貨物追跡管理
- ICタグなど最新技術の活用 等



◆ セキュリティ・ソリューション

「時限くん」等のプロダクトを活用したセキュリティソリューションの提供

- モバイルPC紛失・盗難時の情報流出防止
- 企業内での業務情報、機密情報などの情報漏洩防止
- 企業間でやり取りする個人情報、機密情報などの情報漏洩防止
- 時間規制・使用回数規制により著作権保護を
可能としたコンテンツ配信サービス 等



時限くんは「時限消去」「高性能データ保護」機能を持つソフトウェアです。

①

【時限消去によりデータを一人歩きさせません】
ファイルは指定された条件で自動的に削除されるのでデータの一人歩きを防止できます。
また、コピー・編集・印刷禁止等の規制や回数指定規制を与えることができます。

②

【モバイル環境も保護します】
暗号ソフトウェアと番号ソフトウェアが社内ネットワーク上だけでなく、
モバイルPC環境にも対応します。

③

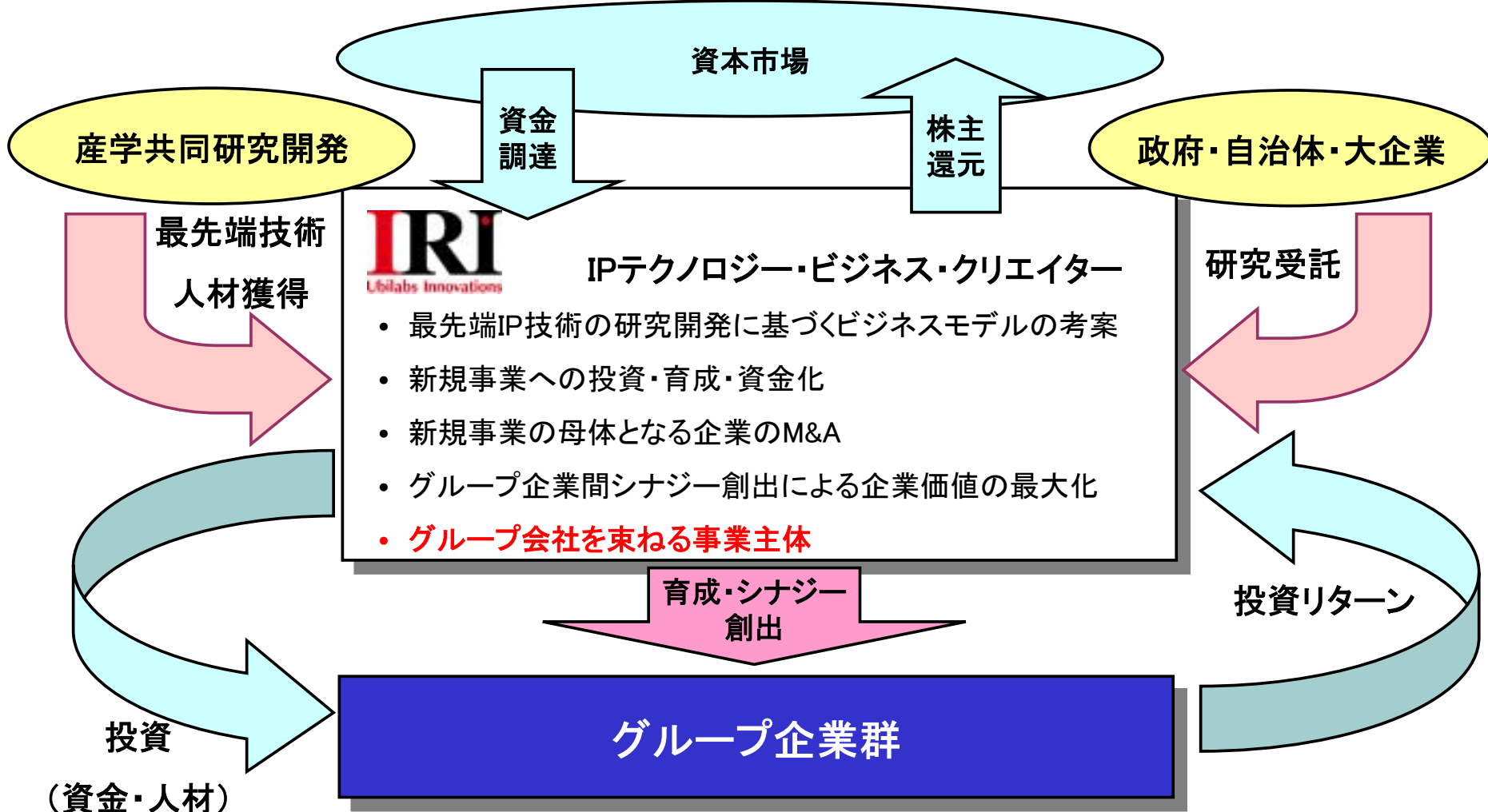
【高速かつ高信頼性なソフトウェアです】
デバイスドライバ技術をフルに活用し、高速処理、信頼性の高い機能をご提供します。

3. IRIグループの全体戦略

3-1. IRIとは？

IRIは、あらゆる産業分野にIPテクノロジーを提供するために、最適なビジネスモデルを企画し実現する「IPテクノロジー・ビジネス・クリエイター」である

IRIのビジネスモデル



3-2. グループ戦略の発展: 従来の戦略

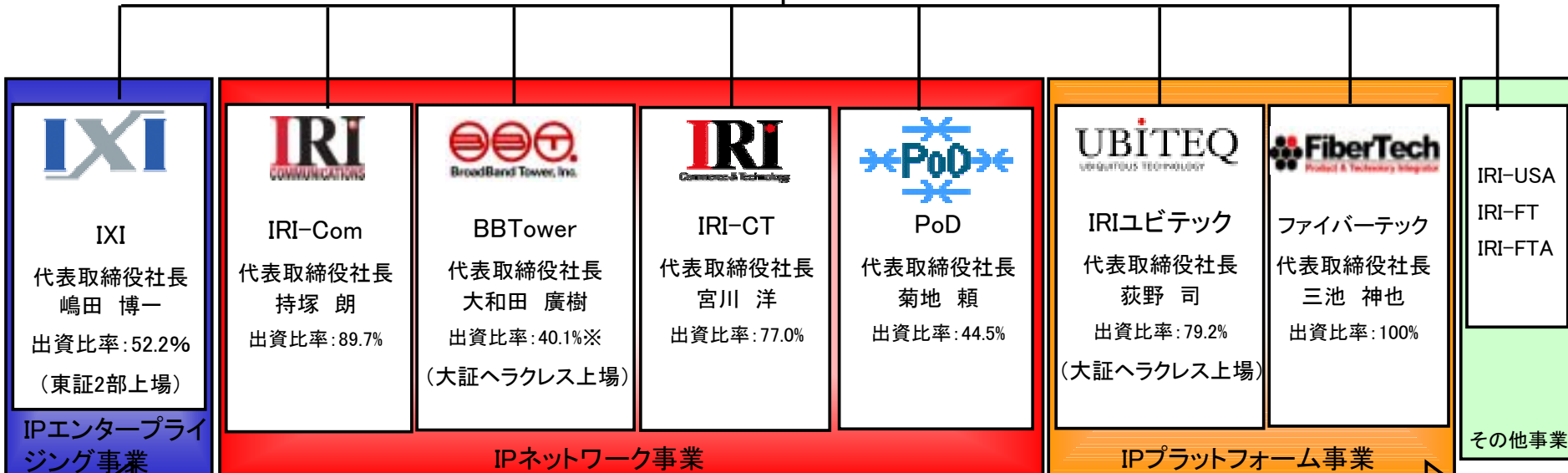
IRI本体は持株会社の機能でグループ成長を支援

代表取締役所長
 藤原 洋
 (東証マザーズ上場)

- <財務機能>
- <グループ・ガバナンス機能>
- <横断的な成長戦略の策定機能>
- <IPエンタープライジング™事業推進機能>
- <M&Aを積極活用した新事業の創出>

出資比率: 3月末現在

IRIグループ群



グループ会社の数と規模の拡大でグループ企業価値の最大化を図る

グループ連結子会社は上場戦略による独立経営

※BBTowerは連結子会社から持分法適用関連会社に変更となりました

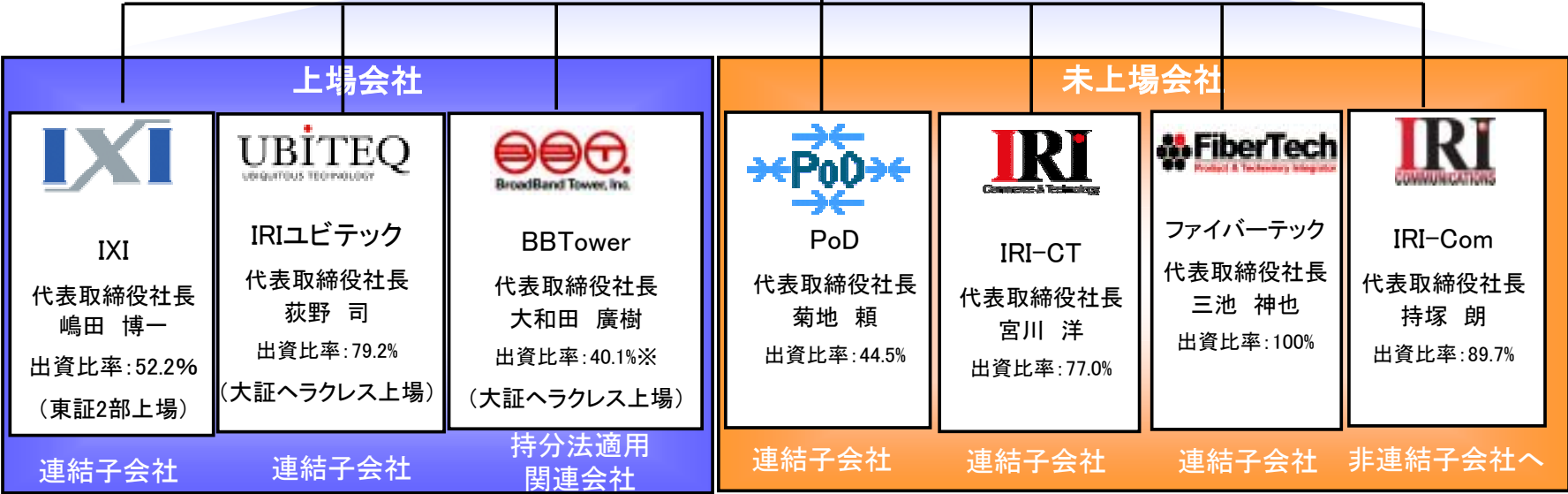
3-3. グループ戦略の発展：今後の戦略（分散から収束へ）

IRI本体がグループ事業全体を束ねるコア事業を展開する（持株→事業会社へ）

<p>本社機能①＝持株会社的機能 グループ会社の成長支援を継続 ＜財務機能＞ ＜グループ・ガバナンス機能＞ ＜横断的な成長戦略の策定機能＞ ＜IPエンタープライズ™事業推進機能＞ ＜M&Aを積極活用した新事業の創出＞</p>	 代表取締役所長 藤原 洋 （東証マザーズ上場）	<p>本社機能②＝事業会社的機能 本体および上場しない100%子会社が一体となり グループ会社を束ねるグローバルな事業を展開</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ＜本体事業①知的財産提供事業＞ ＜本体事業②ネットワーク社会基盤事業＞ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 5px 0;"> SAVER </div>
--	-----------------------------------	--

本体コア事業にグループ経営資源を活用しグループ企業価値の最大化を図る

出資比率：3月末現在 IRIグループ群



グループ連結子会社は上場戦略による独立経営を継続

※BBTowerは連結子会社から持分法適用関連会社に変更となりました

3-4. グループ会社を束ねる本体事業とは

- IRI本体は、事実上の持株会社フェーズから、「グループ会社を束ねる事業主体」なり、事業会社フェーズへと移行。「知的財産提供事業」と「ネットワーク社会基盤事業」を2つのコア事業として位置づける。本体および上場しない100%子会社が一体となり、本体事業を担当する。

1. 「知的財産提供事業」

- 次世代ネットワークサービスの基盤となる、高度な「知的財産」の蓄積に努め、産業分野別に顧客基盤を有するグループ会社の競争力を高めるために、グループ会社と共に最先端技術を提供する事業。
- IRIグループの顧客にとって有用な知的財産を以下の2つの手法で蓄積する。
 - (1) IRI本体がグループ共通の研究開発部門として機能する
 - * 国内外の学術研究機関との関係を強化し産学連携を大規模に展開
 - * 新組織：本体に研究所新設、ユビキタス研究所と連携
 - (2) 知的財産保有会社の100%子会社化及び吸収合併

2. 「ネットワーク社会基盤事業」

- 「ネットワーク社会基盤」となる、高度なネットワークサービスを企画・参画し、IRIグループ全体に共通する事業の取りまとめを行う事業。
- IRIグループ全体に共通する事業の元請事業を行うために以下の2つの手法を用いる。
 - (1) 元請的事業部の設置：JPIX、デジタル放送配信会社、政府プロジェクトの立案等、及び管理、グループ企業への振り分けを行う。
 - (2) 「トータルプロデュース機能保有会社」の100%子会社化及び吸収合併

3-5. セーバーホールディングスの完全子会社化の狙い

IRIはセーバーホールディングス株式会社との間で2006年4月20日に株式交換契約を締結し、2006年7月1日に同社を完全子会社化することとなった

買収(完全子会社化)の目的

- 今後、インターネットのモバイル化／ブロードバンド化が一層進むことを見据え、セーバーグループの持つ携帯電話向けコンテンツ流通に関する技術・ノウハウをグループ内に取り込むため

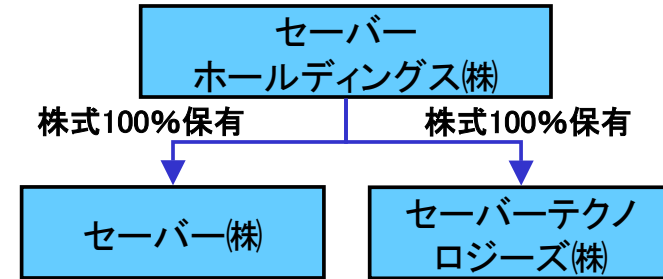
想定されるシナジー効果

- IRIグループがこれまで培ってきたIPテクノロジーおよびその事業への応用ノウハウとセーバーグループの携帯電話向けコンテンツ流通技術・ノウハウとを融合させることで、モバイルインターネット分野におけるIPテクノロジーやサービスの革新を実現する
- 具体的には、下記のような分野での事業シナジーを想定している
 - 現在IRIグループ企業であるモバイルブレイクスルー社で事業化に向けた検討作業を進めているMVNE(Mobile Virtual Network Enabler、仮想移動体サービス事業のプラットフォーム事業者)との連携
 - エンタープライズ向けソリューション事業におけるモバイル技術の活用 等

3-6.サーバーグループ概要

サーバーグループの構成

純粋持株会社であるサーバーホールディングス(株)の下に、完全子会社であるサーバー(株)、サーバーテクノロジーズ(株)が配置されている



事業内容

サーバーホールディングス(株): サーバーグループの事業運営管理

サーバー(株): 携帯電話向け画像、音声配信に関するコンサルティング、システム開発、アプリケーション開発等

サーバーテクノロジーズ(株): 携帯電話向け画像、音声配信に関するシステム開発、アプリケーション開発、パッケージ開発、研究開発

※ サーバー(株)が販売会社機能、サーバーテクノロジーズ(株)が開発機能を担っている

グループ連結業績

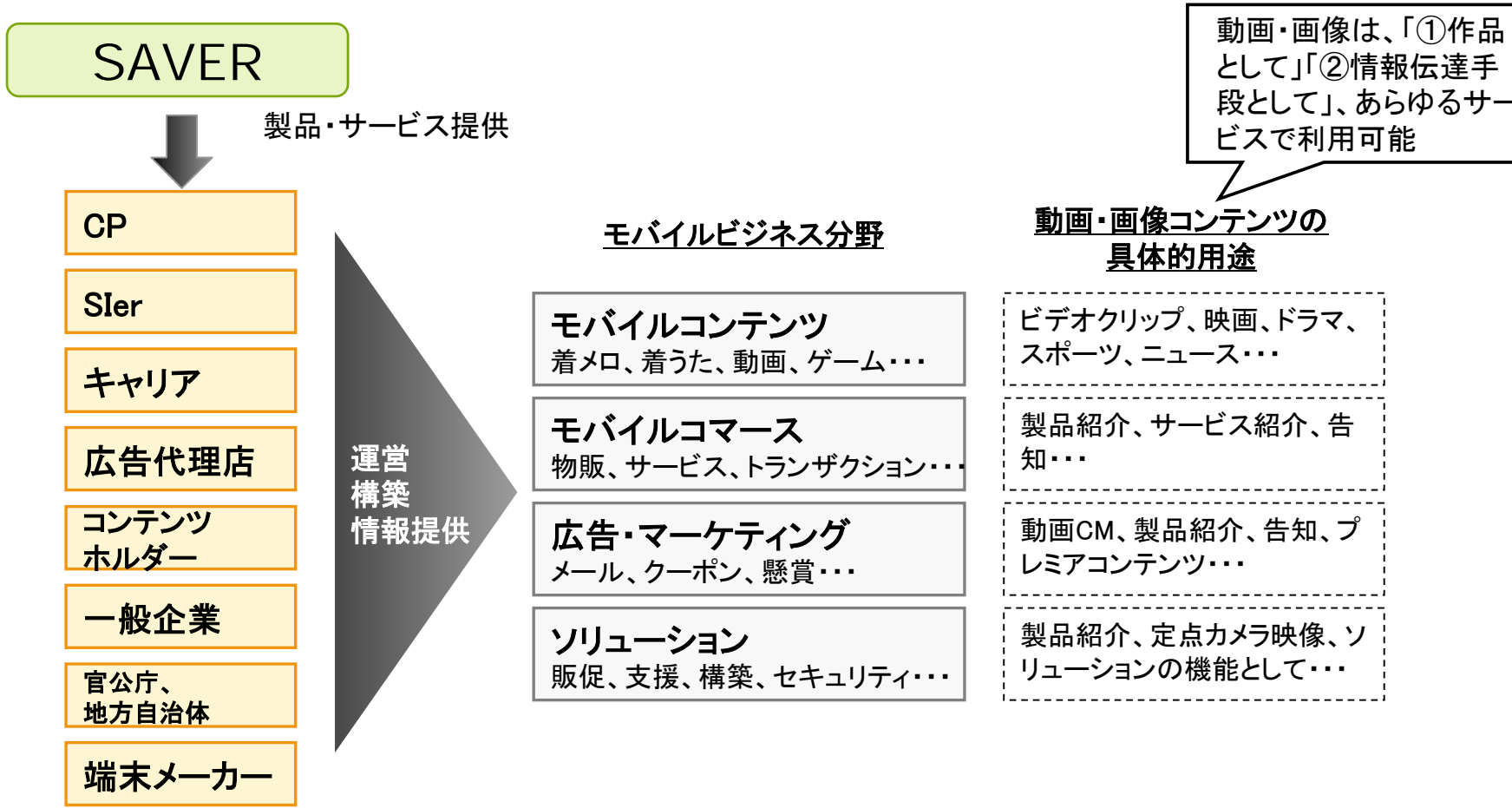
2006年3月期: 売上高355百万円、営業利益2百万円

グループ社員数

33人

3-7.ターゲット顧客と具体的なサービス内容

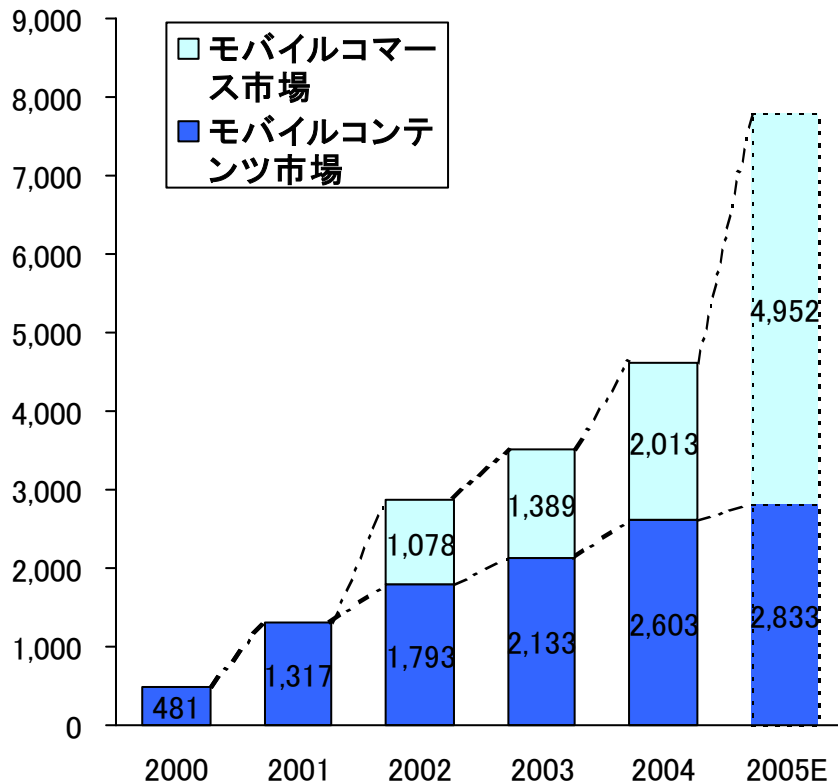
モバイルビジネスを運営・構築・情報提供するモバイルビジネスプレーヤーがセーバーグループのターゲット顧客である



3-8.対象とする市場と事業機会の拡大

モバイルコンテンツ・コマースは着実に市場規模を拡大しつつあり、その中で動画・画像を中心としたリッチコンテンツ配信需要の拡大が見込まれる

国内モバイルコンテンツ・コマース
市場規模の推移(億円)



出典:セーバー(株)作成

リッチコンテンツ配信
ニーズの拡大要因

- 端末の高機能化とパケット費用の定額化によるリッチコンテンツ配信環境の整備
- モバイルナンバーポータビリティ制度の実現に伴うユーザ退会の抑制や新規ユーザ獲得のためのコンテンツのリッチ化
- 1セグ放送の普及による携帯電話で動画を見る行為の浸透に伴う携帯電話向け動画配信市場の活性化

ご清聴ありがとうございました